

ホップにおけるアサノミハムシの被害と防除対策

【1 成果の概要】

(1)アサノミハムシ（図1）はホップの萌芽期初期から加害し、防除が遅れると本種の加害により初期生育が著しく不良となることがあります。そのため、本種を圃場で確認したら直ちに防除を行います。

(2)カルタップ水溶剤（商品名：パダンSG水溶剤）、ピフェントリン水和剤（商品名：テルスター水和剤）はいずれもアサノミハムシに高い効果を示します。



図1 アサノミハムシ（左）と被害芽（右）

体長2～2.5ミリ。成虫で越冬し、ホップが発芽する4月中旬頃、圃場に侵入、芽を加害します。夏には新成虫が羽化し、柔らかい葉を好んで食べますが、生育したホップ葉への加害は大きな被害とはなりません。平成4年8月に北上市岩崎で毬花が食害された報告がある（未発表）。

【2 試験成績の概要】

供試薬剤	希釈倍数	反復	調査株数	散布前(4/21)		散布3日後(4/24)		散布6日後(4/27)		散布10日後(5/1)		薬害
				虫数 (頭/株)	防除価	虫数 (頭/株)	防除価	虫数 (頭/株)	防除価	虫数 (頭/株)	防除価	
パダンSG水溶剤 (カルタップ75%)	1500倍	1	8	0	0	0	0	0	0	0	-	
		2	7	3.6	0	0	0	0	0			
		3	8	2.9	0	0	0	0.1				
		23	2.1	0	100	0	100	0.0	98			
テルスター水和剤 (ピフェントリン2.0%)	1000倍	1	7	1.3	0	0	0	0.1		-		
		2	8	1.4	0	0	0	0				
		3	7	2.6	0	0	0	0				
		22	1.7	0	100	0	100	0.0	98			
無処理		1	6	0.8	4.2	1.3	0.6					
		2	6	2.3	2.5	3.7	2.2					
		3	9	2.2	6.3	7.1	2.1					
		21	1.8	4.3	4.0	1.6						

【3 留意事項】

(1) 農薬を使用する際は必ずラベルを確認し、適正かつ安全に使用してください。

担当研究室 環境部 病理昆虫研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1 TEL: 0197-68-4424 FAX: 0197-71-1085